

晋作!

萩で会おう

龍馬より

一幕末に輝いた二つの青春

しんぞく

晋作と

りようま

龍馬



2006年
4月22日(土)~6月18日(日)

ギャラリートーク

萩市特別学芸員

一坂太郎による展示解説

4月22日(土)、29日(祝)

5月4日(祝)、28日(日)

午後1時30分から約40分

◆開館時間：午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

◆休館日：なし

◆観覧料：大人500円 高校・大学生300円
小・中学生100円

【団体割引】30名以上20%引き

【身障者割引】20%引き

◆駐車場：普通車66台 バス8台

Hagi Hakubutukan
萩博物館

〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355 番地

TEL: 0838-25-6447 FAX: 0838-25-3142

高杉晋作・坂本龍馬 140年祭記念

世の人はわれをなにともゆはぐいへわがなすることはわれのみぞしる 坂本龍馬

晋作と龍馬

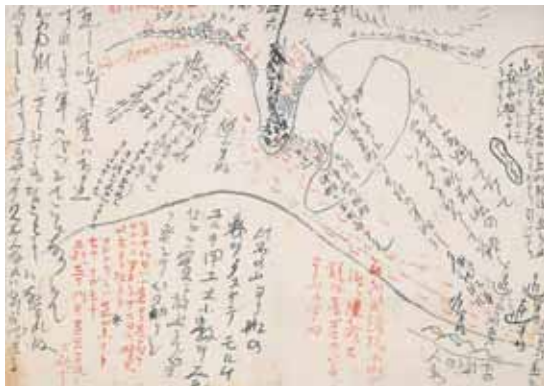
―幕末に輝いた二つの青春―

長州萩に生まれ、吉田松陰に師事し、奇兵隊を率いて外国や幕府と戦った高杉晋作。土佐を脱藩し、薩長間を奔走して海援隊を結成した坂本龍馬。

血と砲煙の臭いに満ちた幕末を、日本を救うという志を立て、さわやかに走り抜けた二人の青年の生きざまは、いまでも多くの人々を魅了してやみません。第二次幕長戦争（四境戦争）のさ中、晋作のもとに龍馬は蒸気船乙丑丸に乗り駆けつけ、共闘します。しかし晋作も龍馬も明治という新時代を見ることなく、この世から去ってゆきました。

二人の子孫が大切に伝えた史料の数々が、没後百四十年を経て、初めて一堂に会します。この機会にぜひ、幕末の青春の息吹に触れてみてはいかがでしょうか。

人は人吾は吾なり 山の奥に棲みこそ知る世の浮沈 高杉晋作



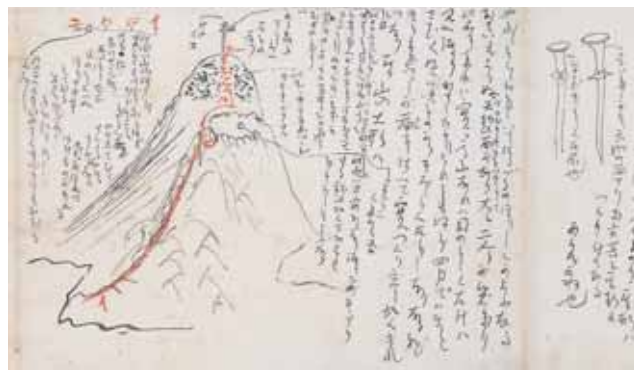
龍馬筆「長幕海戦図」

慶応2年6月、関門海峡での幕府対長州の戦いを記録。中にはオテント丸（丙寅丸）に乗り奮闘する盟友晋作もいる。（坂本家蔵）



晋作の甲

元治元年12月、下関における拳兵のさい首に掛けていた。（高杉家蔵、萩博物館寄託）



龍馬書簡（慶応2年12月4日、姉乙女あて、部分）

妻りょうとの霧島登山を絵入りで知らせている。（京都国立博物館蔵、重要文化財）



晋作の道中三味線

棹の部分が12個に分解できるポータブル式。粋な遊び心の持ち主だったことがしのばれる。（高杉家蔵、萩博物館寄託）



晋作の産着

両親が注いだ愛情が感じられる。高杉家の紋が入り図柄は唐獅子牡丹（高杉家蔵、萩博物館寄託）



交通アクセス

- ◎ JR東萩駅よりタクシー10分
- ◎ 萩バスセンターより
まあーるバス西回り5分
「萩博物館前」下車
- ◎ 中国自動車道小郡IC、美祿ICより50分
- ◎ 山陽自動車道防府東ICより60分

Hagi Hakubutukan
萩博物館

〒758-0057 山口県萩市大字堀内 355 番地
TEL : 0838-25-6447 FAX : 0838-25-3142
E-mail:muse@city.hagi.yamaguchi.jp



血染めの屏風

龍馬暗殺の現場にあった。数十ヶ所に残る血痕が生々しい。

（京都国立博物館蔵、重要文化財）